

第173回 医療ビジネス研究会のご案内

医療機関の経営課題のひとつに、医療の質の向上と医療業務の効率化の問題があります。現場では立場の違いにより、部門(職種)間の衝突の争点にもなるようですが、この2つの課題は二律背反するものではありません。医療など福祉分野においては数値化可能な事柄(効率)だけでなく、適確な判断や安全性など、生命にかかわる充足度(顧客満足)が最重要事項であります。

受益者(患者)におきましては安心感からか、大病院を選好する傾向がありますが、一部の医療機関においては、3時間持ちの3分間診療と揶揄される状況が続いております。単に待ち時間を短くし、診療時間を長くするだけでは顧客満足は充足されません。医療の質の向上と業務効率向上は背反せず、同時並行的に対応することが必要な事業課題です。

日本で出産される多くの欧米人が驚くのは、自国では1日程度の入院で帰宅できるのに、日本では約1週間も入院させられる点であります。また、同じ幹骨折の対応(手術)において、1週間の入院を要する病院と、2泊3日で対応できる病院が混在しています。同じ安全性が担保できるのであれば、医療保険上短期間での対応が望まれますので、身近なところにも制度の課題が有るようです。

近年の赤字病院の増加は健康社会の進展(需要の減少)か、供給過多(過剰な医療体制)か、急激な物価上昇(インフレの進展)か、社会制度的には適確な分析が望まれます。同時に個々の医療機関の経営努力に関しても注目する必要があるようです。今回は日帰り手術を推進する東京外科クリニックの院長と同医療法人の理事長をお招きし、新たな医療への取組みについてお話頂きます。

医療機関は固定費比率の大きい装置産業的コスト構造が有りますが、大きな固定費を上回る実質利益(売上一変動費)が無ければ赤字になります。日帰り手術には従来の入院機能(施設・人材)は不要ですので、コスト構造的には明らかに優位性が有りますが、患者の安心と安全を如何に担保するかが最大の経営課題のようです。

従来は1~2週間の入院が必要であった外科手術も医療技術の進展で、現在では4~5日で退院できるようになりましたが、同院におきましては入院する事無しに、半日で帰宅できる医療サービスを提供しています。手術の医学的、技術的視点、診断から治療に至るまでのフォローの視点、医療費削減に資する社会的視点からも解説戴き、日本の医療の近未来を示唆することを確認したいと思います。

2025年11月

特定非営利活動法人 医療事業再生機構

記

- テーマ:患者にも財政にも優しい新たな医療への挑戦 =東京外科クリニックの医療現場から=
- 講師:大橋直樹氏 日本日帰り手術推進機構理事長 東京メディカリネージ代表
- コメンテーター:山高篤行氏 順天堂大学医学部特任教授 東京外科クリニック院長
- 開催日時:2025年12月3日(水曜日)18:15~20:00

以上

※ 医療ビジネス研究会に参加を希望される方は参加票をご請求ください。